



## 渡辺謙一監督プロフィール

1975年、岩波映画入社。1997年パリに移住、フランスや欧州のテレビ向けドキュメンタリーを制作。「桜前線」で2006年グルノーブル国際環境映画祭芸術作品賞受賞。近年は「天皇と軍隊」(2009)「福島後の世界」(2012)など、欧州において遠い存在であるヒロシマやフクシマの共通理解を深める作品制作に取り組んでいる。

## 「我が友・原子力」放射能の世紀

カラー-57分

このタイトルはWalt Disney製作のOur Friend The Atom我が友-原子力に由来しています。日本では1958年元旦に日本テレビが放送し、**原子力と核兵器・核実験のイメージを分離するプロパガンダ**でした。

医学・産業・科学・未来イメージを原子力に植え付け、核兵器・核実験とは別のものと**核二元論を洗脳**しました。

タイトルにこだわったのは、“放射能”を切り口に“**原子力と核兵器**”、**両者一体のイメージを再構成**したいと思うからです。(監督：渡辺謙一)

7月1日13時30分 上映開始

弘前市民会館(大会議室)

7月2日13時30分 上映開始

八戸市総合福祉会館

## 「核の大地」プルトニウム物語

カラー-84分

私たちは、なぜ**核政策を転換**できないのか。なぜ**脱原発に舵**を切れないのか。プルトニウムをめぐる日米仏3国の核の歴史が原子力産業の終わりを物語る。

3国の原子力施設の中でも、プルトニウム生産工場である再処理施設と周辺住民、自治体との関りを描く。プルトニウムを介し日米仏の地政学的関連を検証する。

7月1日17時30分 上映開始

青森市・アウガ(研修室)



私たちは、1988年8月「核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団」を結成し、4つの行政訴訟を提訴しました。

今は再処理工場と高レベル放射性廃棄物一時貯蔵施設の裁判が続いています。提訴から34年、口頭弁論は120回を超えました。再処理裁判では数々の危険性が問われ、経済性がないこと、避難対策が不十分なことなどを争点に闘っています。しかし、勝訴を勝ち取るまでには、まだ時間がかかりそうです。

このような状況の中で、青森県民の皆様、原子力のことや再処理のことを知ってほしいと思い、県内3会場で映画の上映を行います。一緒に取組んでいただける方も募集します。ご連絡をお待ちしています。

### QRコード予約について

右のQRコードから予約し、当日受付での支払いになります。高校生以下の方も、席確保のため、事前予約をお願いします。**注意**：予約の際、会場を確認してください。

